

“鮮度一番！”

No.175

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1～2 / ひとことコラム
- 2～3 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / 「ちょこっと能楽話」第9回
- 5 / “ワイ女” & 忘年会のお知らせ
- 6 / わたしの回想記 編集後記



・・・ひとことコラム・・・

「秋のお楽しみ」

Y. S

秋になるといいなあと思うことがかなり多いですね。そのいくつかをご紹介したいと思います。昔から言われている、スポーツの秋、芸術の秋、収穫の秋、行楽の秋、読書の秋、などなど、皆さんはどんな秋がお好きで満喫していますか。

私は秋というと、香りや匂いで感じられる季節だと思っています。その代表は稲穂の匂いです。刈り取った田んぼの稲わらの匂いや稲を乾燥させる匂い、そして少なくなりましたが大好きなもみ殻を焼く燻炭づくりの匂い。こうした稲に関わる匂いは三条に限らず、農村地帯や農家の方は共感できる匂いかな？と思います。燻炭の匂いは食欲にもつながっています。じっくりと燻されるもみ殻の中にジャガイモやサツマイモを入れて焼き芋にするとホクホクでとても美味しいですね。まあ40年以上も前の記憶ですが、またできたらいいなあと思う匂いエピソードです。

もう一つは香りです。ダントツに秋の香りを感じるのが金木犀（きんもくせい）です。我が家にも2本あって、ほんの短い期間ですがオレンジの小粒の花が精いっぱい咲いて周りに素敵な香りをサービスしてくれます。初夏に庭の他の樹木と一緒にかなり強めに剪定されますが、虫や病気にも強い木のように、その後頑張って花芽が出て秋にはちゃんとあの甘い上品な香りを届けてくれます。金木犀は中国原産で、銀木犀という白い花をつける木の変種だってこと知っていましたか？

さて、私にとっての秋は「キャンプの秋」です。夏ではなく秋こそキャンプです。気温も下がって、蚊やアブなどの害虫も少なくなって、美味しい食材が手に入って言うことなしです。そして何と言ってもいいのが空気が澄んできて夜空が素晴らしいことです。たき火をしながら、小さなランタンを灯し、肉やキノコをあぶりながら、椅子に体を預けて、だらだらとバーボンソーダをやる。くうー、最高です。そして夜空を見上げたら満点の星、たまりませんね。キャンプは妙高高原に結構行きますが、やっぱり標高のあるところがいいですね。今もチビチビやりながら、

誰か、店なんかは何にもなくて、木立に囲まれた土地を安価で提供してくれないかななんて妄想しています。

最後は「食欲の秋」ですが、何と言っても秋刀魚とイクラです。秋刀魚はぶつ切りにして山椒煮にします。ショウガや梅干もいいけどおすすめは山椒と紹興酒の香りです。ご飯にもつまみにもピッタリです。そしてとどめは醤油イクラ作りです。毎年、かなりの量を作りますが、はらこが店頭に並び始めるとわくわくしてしまいます。手間はかかるけれども丁寧に作って醤油味がピタッと決まると思わず心の中でガッツポーズをして、明日は家族に食べてもらおうなんて思ってニヤつきますが、回数が重なるに比例して感動とお褒めの言葉が無くなっていくのが残念ではあります。でも楽しいことは止められない。皆さんもご自分の秋を楽しんでくださいませ。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成25年10月2日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター

お元気ですか？体に痛いところはないですか？

でも大丈夫！だって私たちの体調不良は、加齢のせい、しごく自然な流れのようです～（.-.；）

次回の運営委員会は、11月6日（水）9:30～男女共同参画センターです。どなたでもおいで下さい。

1. 「まんなか秋号 vol.25」届きました！

三条中心市街地エリア情報誌「まんなか」は、新鮮な情報が満載なうえ読者プレゼントもあり魅力たっぷりです。三条女性会議の会員の皆様へは、会報と一緒にお届けします。会員でない方は、三条市役所、市内各公民館または、市内193店舗に設置されていますので、手にとってご覧ください。でも、ただ、この小さな文字は、若い人向けのね…

2. 会報への寄稿について

ただ今、お二人の方から原稿を寄せていただくお話を進めていて、とても楽しみにしています。そして、皆様の声も募集中です。勲章をもらうと同じような偉業は、日々の生活を淡々と送る中にこそあるのではと考えています。文字数等いかようにも調整します。どうぞお気軽に原稿をお寄せくださいますようお願いいたします。

※後日、栄公民館長の高波三太夫さんより原稿が届きました。6ページに掲載したのでお読みください。連載を期待させる「わたしの回想記その1」です。

3. 来年の“ワイワイ女性ひろば”について

”ワイワイ女性ひろば”担当の田辺さんから、来年度の放送へ向けてテーマを準備しておきたいとの提案から、自由な話し合いを持ちました。

進歩の目ざましい携帯電話に付いていけない私たちですが、現実の伴わないバーチャルな世界で引き起こされる様々な事件やそれらを含むコミュニケーションの問題等を候補としました。

4. 審議会等について

安室さんより 2 件の報告がありました。

三条市介護保険運営協議会
地域包括支援センター運営部会報告

安室 久恵

第2回地域包括支援センター運営部会が9月24日（火）、市役所会議室で開かれた。
議題は、主に平成24年度地域包括支援センターの実施状況の報告と平成24年度地域包括支援センターの収支決算で、委員と事務局で質疑応答ののち内容について承認された。
また、高齢福祉計画・第5期介護保険事業計画平成24年度の実施状況（地域支援事業）について報告があった。

三条市介護保険運営協議会
計画運営部会報告

安室 久恵

第2回計画運営部会が9月30日（月）、市役所第二庁舎会議室で開かれた。
議題は、高齢福祉計画・第5期介護保険事業計画平成24年度の実施状況（25年3月末まで）で、事務局から事業全体の詳細な報告があり、委員との質疑応答ののち承認された。

5. “ワイワイ女性ひろば”打ち上げ&忘年会について

11月22日（金）三条ロイヤルホテルにて、“ワイ女”へご協力くださった皆様へ慰労と感謝を込めて開催します。

飲食は7時からですが、その前の6時30分から助産師である西方久子さんより「今時の性教育」と題して講和をしていただくことになりました。性教育をまともに受けてこなかった私たち世代必見（必聴？）です。

詳細は5ページ、皆様の参加をお待ちしています～。



ちよこつと能楽話 第9回

「石橋」つづき 川瀬弓子



先回に引き続き「石橋」をご紹介します。

前段はツレとワキの問答でした。中入りは装束替えがありませんので緊張感神秘感を保ちつつ間もなく後段が始まります。

まず舞台作りから始まります。後見（黒子役、万が一の代役と聞いています）2人一組で台を1台ずつ運び入れ、1台は舞台前正面に、もう1台を左斜めに置きます。この2台の位置関係が極めて重要で「石橋」の後見役は常よりよほど重い役であるそうです。

台は一畳くらい高さ30センチくらい、台面は赤、フチは金黒の市松です。上には人の身長くらいの紅白の牡丹1本がそれぞれの台に立てられています。

舞台設定ができ、囃子方が獅子の曲を奏で始めます。気迫がこもり何がおこるのだろうかというワクワク感が高まります。そこに獅子の登場です。若手能楽師の登竜門「ヒラキ」と言われるごとく常の能楽とは異質な動きが続きます。

装束は「赤頭をつけ、獅子口の面をかける。厚板唐織を着附に着、半切をはき、上に法被を着て、腰帯をしめる」とあります。前段のツレはワルモノ風黒頭おかつぱで童子の面を隠し加減でしたが、赤頭は獅子口という面がハッキリと見えるように上にピンピンはねている感じ。獅子口は「石橋」専用で、とても大きく彫りも深く重たいそうです。舞いの中で激しく頭を振りますのでずれないように二本の面紐を使い思いっきりしめることによって頭と一体化させるということです。

さて、ここで私自身のわずかな体験から面をかけるとどういう状態になるかご説明します。視野は面に掘られた目のところからしか見えません。脇は一切見えません。前も2メートルくらい離れた人の足下しか見えません。この状態で動きますがハッキリ言って怖いです。目の代わりにするのは足の裏と歩幅です。この動きについては後日紙面実技指導をさせていただきますのでお試しく下さい。よって能楽の動きがかなり制約されているのも納得です。

シテは橋がかりから舞台に入り、台の上に飛び上がり飛び下り、また斜めに置かれた台に乗り移り戻り、牡丹の立木にからみ足をかけ、台の上にてトビアガリヘイガを決めます。常の扇は持たず獣のごとく左右の着附けの袖口をしっかりと握っています。折々に赤頭を激しく左右に振り、また下を見込み天を仰ぐ、拍子にのって獅子の舞いを舞います。

ここで歌舞伎のわかる方はおやっと思われるかもしれません。歌舞伎の鏡獅子、連獅子の原拠となっているのがこの「石橋」なのです。歌舞伎では舞台一面に赤頭や白頭をグルグル回して見せ場を作りますね。

能楽にも小書「連獅子」という特殊な形もあります。白い頭をつける親獅子が登場し、牡丹も桃色を立てた台がもう一台追加され動きもより複雑になります。

そして「石橋」はあくまでも「ヒラキ」ですから、地謡も囃子も後見も全て袴をつけます。格が異なるのですね。本日はここまでとさせていただきます。

“ワイワイ女性ひろば” 打ち上げ & 忘年会

少し気の早いような企画ですが、下記とおり忘年会を開催いたします。
“ワイワイ女性ひろば”へご協力頂きました皆様、そして、今年まだ一度もお会い出来ていない皆様こそのご参加をお待ちしています。

肩ひじの張らない気楽な会です。一芸をお持ちの方は、どうぞその技をご披露ください。楽しい会になりますように～♪

記

- ◆日時：11月22日（金曜日）
午後6時30分～
講和 「今時の性教育」
講師 開業助産師 西方久子さん
午後7時～ 乾杯
- ◆会場：三条ロイヤルホテル（三条市本町3-5-25 TEL34-8111）
- ◆会費：5,000円
- ◆連絡先：三条女性会議 野崎ミチコ（または、お近くの運営委員へ）
FAX 0256-32-3679
TEL 0256-32-3667（昼）
TEL 0256-32-1764（夜）
E-mail: info@joseikaigi.net

11月22(金)打ち上げ&忘年会へ参加します

氏名 _____

電話 _____

※このままFAXでお送り下さい。

わたしの 回想記

その1 2013

高波 三太夫

・・・ ここから 越後路 犬が寝てゐる ・・・ 関川にて

これは山頭火が詠んだ、其中（ごちゅう）日記の一節である。全てに凝縮された生き様が、物語るようにさえ思われてくる切なくもまた、郷愁に浸るひとこまが、此処に覗く。

サテ、乗せられて、拙い語らいを記さねばならなくなった。

それは炎天下。わたしが藁草履を常として遊んだ少年時代、当時の遊び場は野っ原（パラ）がつきもので、土手を駆けめぐったものである。その中に今でも回想のごとく残る想いがある。

其れは「石投げ」である。誰が教えた訳でもないが、川原での石投げだ。平たい石を拾い、真横に水面を叩きつけるが如く、ピシッ、ピシッと水を切って四段、五段と水を弾かせて飛ばし、得意気になったものであり、快感そのものであった。

今はそんな川など見当たらない。現代ッ子にしてみれば遠い昔話。

土日、または下校時、ピカピカの自転車がいつも隣家に五、六台。常連なのだろう、ゲームに集中かな。騒ぎたてる音さえ聞こえない。

時代は、子供の遊びを変える。子供は、時代の遊びを目ざとく追う。そんな中で、遊ぶ事の中から、創り出すことの眼力に目覚めて欲しい。みんなその可能性を秘めている。

十七歳の体操選手。横にぐるぐる回って着地する。誰が想像しただろう。子供は育つ。大人はその環境づくり、社会づくり、わたしもその一員かも知れない。と、言いたいのだが・・・ 1939年生まれ

編集後記：

日替わりの天候の変化に体がついていきません。年のせいにしたくはないけれど、体はもう冬支度はじめています。「経験したことのないような」、「百年に一度の」、「10年に一度の大型台風」などなど、聞きなれない言葉が飛び交っていますが、どうあがいても自然には勝てませんね。自分の身は自分で守らねば！秋にお届けする鮮度一番175号、内容てんこ盛りに仕上がりました。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>